

私の被爆体験 平成20年10月

1945年 昭和20年8月6日 午前8時15分

この日は空は青く晴天です、朝から暑い日でした、今日は三篠高等国民学校の高等科1年生 佐久間組の家屋強制疎開の勤労働員に行く日です、午前7時30分頃に家を出ました40分頃に学校に着き、45分頃には点呼し、警戒警報が出ていました、8時30分から作業を始めるので、学校を50分過ぎにでました、警戒警報解除になり山陽本線の踏切を渡り、市電道り「当時と今では市電の道りの位置がかわっています」の左側を二列に並び、市の中心部に向かって歩いていました、私は横川橋を渡る手前で体調が悪くなり、列をはずれ、建物の物陰に一人座っていたときに、黄色い物凄い閃光がして、その瞬間爆風に飛ばされ、約20--30m飛ばされ、約10分か15分かわかりませんが気を失っていました、ふと気が付いて周りを見ると、家屋は皆吹き飛ばされ、火の手があがり、人が倒れて助けを求め叫び、熱傷し怪我して倒れている人、家屋の下敷きになり助けを求め叫ぶ声や、即死の人が、道路に転がっています、もう考えられない光景です、

私は只夢中で家へ向かいました、倒れている人や、倒壊した家の材木や色々の物を避け、ながら只夢中で歩きました、頭の傷からは、大量の血が顔の左側に流れいます、作業用の軍手で頭の傷を押さえていましたが、軍手の血は絞るほどです、顔の左側は熱傷し皮膚が剥がれ垂れ下がり、その上に頭の傷から血が流れていました、

家まで無我夢中でたどり着いたが、家は跡形も無く吹き飛ばされていたが、ただ、レンガ作りの洋館の勉強部屋だけの建物の外観は残っていました、家には祖母、父親、兄、弟、がいました、私の家族は7名です、祖母〔明治3年生まれ〕、父親〔明治22年生まれ〕母親〔明治36年生まれ〕、兄〔昭和5年生まれ〕、本人〔昭和8年生まれ〕、妹〔昭和12年生まれ〕、弟〔昭和19年生まれ〕です（住所 広島市楠木町4丁目 約2キロ 母親は、建物強制疎開の町内会の勤労奉仕に行きましたため、行方不明です、骨はありません、祖母は、レンガ造りの部屋にいて、無傷で無事でしたが1ヶ月後の〔昭和20年9月20日〕に突然倒れ、翌日息を引き取りました、父親は、家で被爆し、顔から胸にかけて熱傷し怪我をし2、3日後には胸は腐り蛆か這っていました、その後、被爆症で寝たり起きたりで、〔昭和25年9月7日〕兵庫県山崎町で死亡しました、

兄は、木造建物にいて、覺ごと吹き飛ばされ風呂場にたたきこまれて怪我をしましたが、無事でした、平成15年10月22日に胃癌と大腸癌で死亡しました、

妹は、お寺で学習中に被爆し、お寺は壊れ下敷きになり、辛うじて這いだし家に帰ってた

が、顔に怪我をしていました、友達はお寺の壊れた下敷きなり、助けを求めていました
生後8ヶ月の弟は、たまたまミシンの下にいたため、無傷で無事でした、被爆後1ヶ月頃
から、体全体に化膿して指が入るくらいの穴がいくつもあき、1年くらいじくじくと化膿
していました、その後、皮膚痛にかかり、その他、胃には癌細胞が見つかり切除した、
私は父親と兄とともに、行方不明の母親を探しに市内中心部を、1週間探し周りましたが
結局遺体は見つけることができませんでした。

市内には死体の山があり、相生橋の歩道の一部は曲がり持ち上がっていった川にも死体が
沢山有り地獄絵のようです、この光景は言葉に表すことはできません。

2週間たっても、死体の整理はできていなかった。死体があまりにも多すぎて、埋めるこ
ともできず、そのまま死体の山を作って重油かけて燃やしていた、人間の体には脂肪があ
るので、2週間たっても、ぶつぶつと人間とは思えない死体の山がくすぶっていました

私達は、被爆後3週間して、兵庫県山崎町へ家族で移り住みました

顔半分はただれて、脱毛と吐き気、頭痛が続き 頭痛は40年以上も続き、今でも、頭
を振ると、ツンツン、ツンツンと音がする、今でも、頭は、ふとした時に常に痛くなり、
寝るとき、頭の下を1度押さえないと痛くて眠れない。

私は、被爆後、体がとにかくだるく、学校も1年近く休み、1年遅れとなった。

当時、父親には体力をつけないと動けなくなると言われ、体力をつけるために、陸上、
鉄棒、山登り、などをやったため、運動は万能で体力があります、そのため被爆しても生
きながらいられたのだと医者から説明を受けたことがあります。

今でも、毎朝7時50分頃から、約1時間ウオーキングシ、8時50分頃すら水中体操
をし、水泳を10時頃までして体力を維持しています、

現役の頃は土曜、日曜日は早朝ウオーキング、会社の帰りに水中体操、水泳を週3-4
日は1時間程度していました。 26年以上続けています。

煙草は1度も吸った事はありません、

私も立って居たら死んで居たと思います。物陰に座って居たのが奇跡です。

私の被爆後の病歴

横山 弘 2008

- 1945年昭和20年8月6日から脱毛、吐き気、下痢、頭痛、鼻血を度々だしました。
- 1948年、昭和23年、頃から度々原因不明の高熱で倒れる、42度以上、
- 1950年、昭和25年、頃には肺門炎で、2ヶ月間、安静、左肺肥大、気管支炎
- 1952、昭和27年6月頃、原因不明、左目に黄色い幕が掛かり見にくくなり、
約6カ月間、瞳の中心に注射をしました、他鼻血は朝顔を洗う時に度々ある、今でも。
- 1953年、昭和28年8月頃には原因不明の高熱で又倒れる、43度以上、
その後も数度倒れ、医師も原因が分かりませんでした。
- 1961年頃からは年に4-5回よく気管支炎になりやすく、今でも繰返掛かります。
- 1967年、昭和42年12月31日は胃潰瘍で突然倒れ、夜中に緊急入院へ、明るる日
胃カメラ、取り、潰瘍が5コあり、1週間安静にし、10日後にもう一度胃カメラを取
り、潰瘍が3コ消えていました、医師もびっくりしていました、2ヶ月通院
- 1973年、昭和48年12月31日
又も突然倒れる、夜中に緊急入院し1週間安静、診断の結果、尿道結石でした。
約2ヶ月通院しました、
- 1981年、昭和50年9月
横浜市民病院、ガン検診センター、大腸ポリープ切除しました、細胞不明
- 1985年、昭和60年10月
朝、原因不明で突然腰痛と膝痛で立てなくなり、歩く事ができません、4日間安静。
- 1996年、平成8年6月10日
腰痛、変形性脊椎症、他、継続 気管支炎は年に4-5回はある、今でもつづく。
- 1990年頃より毎年、10年間以上
横浜市民病院、ガン検診センター、胃カメラ検診。
- 2000年、平成12年1月、
横浜市民病院、CT検査 胃カメラ検診の結果至急に胃の腫瘍手術すること、
はっておくと癌に成るとのことでした。至急に手術をする事になる。ガン
- 2000年、平成12年2月29日 横浜市民病院外科、主治医、橋本 邦夫 先生、
3月2日、胃粘膜下腫瘍、手術 6時30分間 手術後、肝障害、検査の結果良性
2月29日より、3月15日まで入院 その後、不整脈、耳鳴り他、不調
- 1996年 平成8年頃、から2年毎に大腸ポリープ切除してます。松島病院、継続。

2000年 平成12年頃、

耳鳴りがひどくなり、ジージー ひいーひいー しゅーしゅー と1日中鳴っています
又頭を振ると、しゅるーしゅるー ぶるんー ぶるんー と音がします、現在も

2003年 平成15年頃、

左眼 涙腺液分泌減少症、 両眼網膜剝離症、です、

2004年 平成16年頃、

脳梗塞 心筋梗塞、危険あるとの事です、

2006年 平成18年6月20日

横浜市市民病院 入院 心房細動の電氣的細動をうけます、

2006年 平成18年8月27日

横浜市市民病院 緊急入院 午後11時30分頃 緊急車で行く

潰瘍で胃のなかに血出 28日 午前3時頃 内視鏡手術 ファイバースコープ

手術8月28日より9月7日まで入院 自宅で療養

2007年 平成19年3月16日 午後3時30分頃

南万騎ガ原駅で倒れる 救急車で横浜市民病院へ入院 心筋梗塞 狭心症

3月16日より3月21日迄 入院

2007年 平成19年4月30日 午後5時20分頃 救急車で

横浜市民病院 入院 4月30日より5月3日迄 狭心症 カテーテル検査

2008年 平成20年1月 9日 万騎ガ原ケアプラザ倒れる 救急車で

横浜市民病院へ入院 1月 9日より1月12日迄 狭心症。てんかん。